



<千支人形が勢揃い>



Contents

ホームページでは**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



明けましておめでとうございます	1	のらの会の生い立ちと歩み	8
ならやまプロジェクト	2	ならやま印象記	9
Monthly Repo ならやま	3	海外ボランティア活動体験記—8	10
里山の今 (エコ・景観)	4	ならやま投句箱	11
秋のならやま自然観察会レポ	5	行事案内・仲間入りしました	12
月例研修会 (平群の修験の道) レポ	6	幹事会報告・こもれび	13
芋煮会・そば打ち実演会レポ	7		

明けましておめでとうございます

千載 輝重

昨年はコロナ禍が完全に消えたわけではないですが、アフターコロナが浸透し、会の活動は従前の姿を取り戻しました。地球温暖化の影響が、酷暑の中、著しい雑草の繁茂にも悩まされましたが、皆様のご協力で大過なく活動することができ、予定されたイベント、ならやまプロジェクト、月例研修会、自然観察会ともほぼ計画通り実施できました。この一年のトピックスはコロナ禍で停滞気味であった里山景観保全がきちんと進んだことに尽きます。本当にお疲れさまでした。

今年は辰年。辰は龍に置き換えられます。十二支の中で唯一実在しない神話や伝説上の生き物です。説明できない自然現象をつかさどる生き物として創られたのではないのでしょうか。新しい年を迎えて、「昇り龍」にあやかって夢の世界に向かってさらに前進・・・といたいところですが、地道に保全活動を続ける私たちにとっては、安全で楽しい活動を天から見守ってくれる「守り龍」であってほしいと思います。

今年も、全体の活動を共有してこれからの活動のありかたを考える場として新春交流会を予定しています。ぜひとも現実も認識しつつ夢を語りあうことができればと願っています。

<ハーモニー>

12月に両眼の白内障手術を受けた。まず右眼。左眼は利き目でもあるし手術しなくてもいいかとも思える程度だったのに、眼帯で覆っている右眼を開けて両眼で見るほうがよく見える気がする。右眼は見えなくせに左眼をサポートしているのだ。

眼帯がとれて右眼がくっきりと見えるようになったら、十分と思っていた左眼の見えにくさが際立つ。でも当然だが右眼だけでなく見え

にくい左眼のサポートがある方がよく見える。

両眼の手術が終わって世界が変わった。左右両眼が健全であることがこんなにも大きなことかと改めて感じた。脳は左右両眼それぞれの見え方をハーモナイズさせて最も素晴らしい世界を見せてくれているのだろう。

もっとたくさんの眼があったらもっと素晴らしい世界が見えるのだろうか？ いくつもの眼をハーモナイズさせるのは難しそうだ。

でも、ソロやデュエットもいいが、気持ちが一つになった合唱団のハーモニーは素晴らしい。

<憧れ>

年末は大谷選手の去就に話題集中。ついに10年契約7億ドル(平均年俸約100億円)でドジャースへの移籍が決まった。新天地でのますますの活躍が楽しみだ。けれども何と現実味のない数字か。MLBはそんなに金持ち？ ということでちょこっとネット検索して推定し、日本のプロ野球界と比較してみた。

	MLB (30球団)		プロ野球 (12球団)		対比	
	全体	球団当たり	全体	球団当たり	全体	球団当たり
資産	560億ドル	19億ドル	3000億円	250億円	26倍	11倍
年間観客数	1億人	330万人	2500万人	200万人	4倍	1.7倍
年間収益	120億ドル	4億ドル	2000億円	165億円	8.5倍	3.4倍
年俸	50億ドル	1.7億ドル	320億円	27億円	22倍	9倍
年俸/収益	42%	42%	16%	16%	2.6倍	2.6倍
*ネット情報からの推定による					為替140円/ドル	

総資産約560億ドル(約8兆円!)は26倍(球団当たり11倍)、年俸は22倍(球団当たり9倍)と際立っているが、観客数、年間収益は驚くほどではない。結果、収益に対する年俸比率がかなり高い。事業運営が効率的で無駄な費用が少ないのか？ 選手を大切にしているのか？ 球界の仕組み自体が違うこともある？

報酬だけが魅力ではないだろうが、このままでは日本の優秀な選手はどんどんMLBに行ってしまうそう。大谷選手はじめMLBで活躍する日本人も増えたが、やっぱり「憧れ」はまだまだ消えそうにない。いや、「憧れ」るものがあることは幸せかもしれない。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

暖冬だと言われるが日によってはとても寒い。朝から焚火を囲む輪が広がる。お昼には熱い豚汁に身も心も温まる。冬野菜の収穫も順調で、新年早々の餅つき、七草粥が楽しみだ。新年度の活動に対してご支援いただける「志金」の吉報も得られ、「守り龍」にあやかって着実な保全活動ができるようにと気を引き締める。

また鹿による侵食被害が発生した。なら四季彩の庭づくりの一環としていただいたビオラ・パンジー500株を植栽した花壇が鹿に荒らされ、ほとんどの花が食いちぎられた。冬が来て春日奥山や奈良公園の芝草などが無くなり、餌を求めて公園外に出てきたのだろう。ならやまは道路や街に囲まれていると思っていたが、もはや鹿の行動範囲に入ってしまった。なるほど奈良公園周辺であまり花壇を見かけることがない。今後の植栽種についてはよく考えなければならない。これも「自然との共生」をするうえで避けられないことかもしれない。あまり大騒ぎをせず、知恵を絞って無理のない活動を心がけたいと思う。

1月の活動特記事項

- 1月11日(木): 初出(餅つき、七草粥)、10年継続会員記念植樹
- 1月27日(土): 新春交流会

1月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備(チップ処理)、薪割り シイタケ榎木玉切り ユート: アカマツの森での雑木間伐と整備
エコファーム	畑のチップ入れ(天の川、南3、南4) 各種野菜の収穫・施肥 鹿ネット更新、新ハウス設置
景観	整備: 竹林整備(チップ処理)、ミツバチ巣箱整備 ビオ: 池・水路の景観保全・整備 花: アジサイ園・道路沿い花壇・山野草園の草引き
パトロール	1~3コースパトロール、観察路点検整備
果樹	実りの森清掃(落下杉枝撤去)、果樹剪定、ブルーベリー移設 コンポスト枠増設、コンポスト作り、防草シート張り

活動日: 毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

11月23日(木) 晴 69名、京都大学生3名

午後、パトロールGによる自然観察会を実施。また、奈良テレビ放送がチョウの取材、京都大学生が里山研究のため、土壌採取を行った。

里山Gは運搬車の通路の整備、干支工作準備、No.18区画の下草刈り。エコGは里芋の収穫と玉葱の植付けなど。景観Gはならやま大通りの法面の垣根作り。花班はノウゼンカズラの剪定など。ビオ班は蓮池の補修工事。パトロールGは観察路の整備と自然観察会を行う。果樹Gはブルーベリー植え床作り、実りの森の除草など。

11月30日(木) 晴 59名

先月実施した賄い当番(味噌汁)のアンケート結果に基づき、12月から味噌汁の提供を行う旨の説明があった。芋煮会、蕎麦クラブ、例会などの打ち合わせ実施について連絡があった。

里山Gは楢木用コナラの伐採、No.18区画の下草刈り、干支工作準備、薪割り。エコGはチンゲン菜の移植、エンドウ豆の種播き、里芋の収穫、ハウスの整備。景観Gはならやま大通りの法面の垣根作り。花班はナニワイバラの剪定、花壇の草引き。ビオ班は蓮池の土手の補修工事、西池北側湿地の泥上げ。果樹Gはブルーベリーの植床作り、ウメの剪定、実りの森の除草。



12月7日(木) 雨のち曇り 72名+4名

朝から雨が降りスタートは少し混乱したが、予定通り芋煮会と蕎麦打ちの実演披露を行う。

近畿大学の北川教授、学生、計4名が参加。先月植えたビオラ・バンジーとジャガイモの葉が鹿に食い荒らされた。

里山Gは楢木用コナラの伐採、苗床周辺の整備、干支工作部品作り。エコGは全員で芋煮会の準備、玉葱の植付け、大根、里芋などの収穫。景観Gはならやま大通りの法面の整備、芋煮会、蕎麦打ち実演への参加。花班は藤棚の下草刈りなど。ビオ班は近大生の定期調査、蓮池整備、クワイ掘り出し。パトロールGは観察路2コースのパトロール、桜山の笹草刈り、樹木の銘板取り付け。果樹Gは芋煮会、蕎麦打ちへ参加、橘とゆずの収穫、ウメの剪定など。



12月14日(木) 晴 64名

イオン環境財団から来年度の助成金が承認されたとの報告。先週の芋煮会・蕎麦まつりについての話があった。橘の実が売れたとの報告があった。

里山Gは景観Gの協力を得て、西側入口周辺のコナラ4-5本を伐倒、コナラの玉切り、片付け、ミニ門松用竹切り出し、No.18区画の植樹場所の下草刈り。エコGはスナップエンドウなどの種まき、玉葱の植付け、里芋、大根など収穫、鹿ネットの補修。景観Gは里山Gと共同でコナラ伐倒枝等の整備、第3駐車場の法面の笹刈り、竹の整備。花班はあやめの葉の刈り取り。ビオ班は蓮池の葦の除去、泥上げとビオエリアの不要な廃材の掃除。パトロールGは観察路3コースのパトロール、桜山の笹草刈り、自然教室工作準備、堆肥置場の整備。果樹Gはレモンの収穫、ウメの剪定。

景観グループ

里山の今

エコグループ

みんなで草刈りをしよう！！



八丈島

内河 洋文

足立 勝洋

毎年、長野の兄から「林檎」が届く。去年は天候不順で雨が降らず、且つ猛暑だった為、赤く色づかず、甘みも少ないとの事前通告。お店の人によると、贈答用に使える「林檎」は殆ど無いと言われたそうだ。一方では、雨ばかりが続いて、お米が不作な地域もあった。異常気象は人間の営みに甚大な被害を与える。

【<新聞記事より>エコ活動をしている人に「なぜ人間が関与して環境を守る必要があるのか。雑草が茂り、荒れているように見えても、それも自然の姿ではないのか」と、記者が尋ねると、耕作が放棄された畑に案内してくれた。びっしり繁茂していたのは、人の背丈をはるかに超えるセイタカアワダチソウだ。北アメリカ原産のこの帰化植物はいつときほどの勢いはないとされる。それでも、きっかけさえあれば一気に辺りを埋め尽くす。心配なのは外来植物だけではない。在来のクズも飼料として使われなくなったことで伸び放題になり、他の植物を覆って枯らしてしまうようになった。植生のこうした変化に歯止めをかけ、人が関わることで成立した多様な生態系を守るのが活動の目的だ】

景観整備チームは晩秋から翌年の春頃までは、主に竹林整備をしている。昨年夏の台風被害で、真竹がたくさん倒れ、大きく傾いた竹も多数発生した。それらの竹の伐採・整理に草刈りの貴重な時間を割かなければならなかった。チーム員の頑張りのお陰で、ならやま大通り沿い法面の倒れた竹の伐採も進み、法面が非常にスッキリした。いや、むしろスッキリし過ぎてしまった。その為、目隠しの垣根を作ることになった。垣根作りは地味な仕事だったが、良い経験が出来た。景観Gでは、一緒に活動してくれる人を募集しています。もぐもぐタイムはありませんが、みんなやさしい人たちです。

エコG足立です。それで、エコGとは殆ど関係なく、又いつもの古代史の話でも無く、八丈島の話を実拍子もなく記述させていただきます。

東京都に住んでいた時に、いつかは訪問してみたいと思っていた伊豆諸島。今回たまたまJTBが募集していた八丈島旅行へ昨年11月に行き参りました。飛行場に降り立つと、富士箱根伊豆国立公園八丈島の看板がお出迎え。こちら、亜熱帯地域とのことで、11月末で気温20度。これは異常気象ではありません。ここは東京都であり、都心から約300km南方、更に南に小笠原諸島が南硫黄島まで伸びています。日本はまさに島嶼(とうしょ)海洋国であり、かつ大森林国で、大自然に恵まれていることを実感します。

鳥類は多いが、クジラ以外野生哺乳類はいない。飼われているネコは見掛けた。黒和牛とジャージー種乳牛が放牧されている。ぎゅうぎゅう詰め牛舎でなくて幸い。牛乳もおいしい訳だ。道で人影は少ない。6千数百年前からヒトは住んでいた。現在島内人口6900人で昭和25年のピーク時から半減、移住大歓迎とのこと。クルマは7500台で全て品川登録ナンバー。農業、建築・土木業、漁業が主産業。地熱発電は休眠中、来年再稼働か。風力発電もあるらしい。飲料水の質と量は、伊豆諸島で最良。

芋、人参など普通の野菜も栽培されているが小規模。明日葉は現地原産で貴重な食材。南方系の観葉植物などをよく栽培し、本土へ出荷され、フェリックスロベリニーの売上は全産業売上高の7割をしめるそうだ。

風が強く、一年の138日以上は風速10m以上。スギも一応生育するが、風の影響で上方に伸び太ることができず、建築材にはならない。

植物種は多く観察が楽しい。また勿論海釣り天国。どなたか移住されませんか。

秋のならやま自然観察会レポ

小島 武雄

11月23日(木)ならやま活動日。

今年最後の自然観察会です、今回は秋のならやまで行われました。朝は冷え込みましたが、午後には気温19度。木漏れ日の中、最高の観察日和です。

午後1時より約1時間半、会員30名が参加されました。案内はパトロールGのメンバー8名です。①ビオ・田圃周辺、里山林入り口、②BC周辺、③学びの森、自然観察路入り口の3コースを3班に分かれて観察開始です。



最初は、ラクウショウ(沼杉)。植樹地の環境が良かったのか、大きく成長しました。落葉に埋もれた足元には沢山の呼吸根が育っていました。小さいメタセコイア(曙杉)の紅葉も綺麗です。足元にはキツネタケ。「食べられるか？」の声が。フェンス際にはアケビの大きな実がまだ沢山残っていました。

湿地に群落するミツガシワ、瑞々しい3枚葉を見つめて、氷河期を生き残ってきた逞しい話



に耳を傾けます。BC周辺は、ヤマトタチバナ(実はこれも絶滅危惧種)の味見、見かけほど酸っぱくなく美味しいとの声も。マグワの枝葉から生まれる、鮮やかな染め布に驚き、コマユミの鮮やかな紅葉の中の

可憐な実を見つけました。山椒の香りの無い、棘のあるカラスサンショウの話に頷き、3時に

開花するという不思議なハゼラン(サンジソウ)を前に、まだかと時計を確認してため息も。

学びの森、自然観察路入り口では、最初に目に飛び込んでくるイロハモミジの鮮やかさに目を見張ります。普段は、気づかなかったのですが、見事な紅葉になっていました。みんなでカエデのタネ飛ばし。すぐ側にある切り株の上には、黄色イトゲトゲのツノマタタケ。藪の中に見つけた真っ赤なフユイチゴの味見、カツラの落ち葉の香ばしい匂いも嗅いでみます。黄色い落ち葉の絨毯の中にイチョウも見事に黄葉していました。

サイクリングロードを横断し、スタジイ(すだ椎)、ツブラジイ(円椎)を見に行きます。この木々は、五年ほど前に植樹したもので、ずいぶん立派に育っていました。このドングリは無洗で食べられます。「私の子供の頃、おやつでしたよ」の声がありました。



この観察会のために、3週間前に下見をしたときは、田圃の上空には見事に真っ赤なナンキンハゼの紅葉が望めましたが、観察会当日は残念ながら

枯れ木の様。また期待した紅白のミズヒキの花もなくなっていました。新しいキノコもなかなか見つけられなくて、ちょっと残念。でも、匂い、味、触れる体験が出来ました。次回は、自然の森の素晴らしさを体験する企画を考えます、お楽しみに。

今回、何度も下見で観察道を歩き続けていると、「この木は何?」「あっ!ここにもこんな実が」の発見、また「ここに植えられた話」などが色々聞けました。また頑張っ、樹木銘板作りです。

パトロールグループの皆さまご協力ありがとうございました。

月例研修会（平群の里）レポ ～平群千光寺・役行者と修験の道へ～

田中 善英

12月5日（火曜日）、今年最後の月例研修会です。4日17時の奈良気象台の天気予報の降水確率は午前中20%、午後50%でしたが、参加者の強運を信じて開催されました。

9時30分頃から近鉄生駒線東山駅に参加者



18名が集合し、10時7分発の平群コミュニティバスとタクシーに分乗して出発しました。



10時18分に鳴川でバスを降りてから、徒歩で千光寺へ行き、10時30分、千光寺の山門前で先行しているタクシー組と合流しました。

千光寺は修験道の粗である役行者が修行し、660年に天武天皇が伽藍を建立したと言われています。その後、役行者は大峰山の山上ヶ岳に行場を開いたので、千光寺は「元山上」と呼ばれています。その名の通り近くに行場もあり、修行の場に相応しい雰囲気のあるお寺でした。

お寺の雰囲気と紅葉を満喫し、11時10分に出発して清滝石仏群に向かいます。今回のコースは千光寺の標高が一番高く、後は下りだけなので、楽ちんです。5分ほど歩いて到着。ここも行場の一つのこと。今は水が落ちていない滝があり、滝の崖面に線刻地蔵がうっすらと見える。また、伝染病などを防ぐ願いを込めて架けられた勧請綱の跡も見える。役行者が開いた修行の場を身近に感じた時間でした。



11時25分に出発。緩やかな山道を下っていく。途中、花や景色を楽しみ、おしゃべりしながら楽しく歩き、途中で珍しい木を見つけた。

葉っぱは杉とヒノキのように見え、2本の木の根元がくっついていて、根も絡まっている。自然の不思議だと言いながら、遠くに目をやると平群の町並みが見える。もうすぐお昼ご飯。

12時、生駒山口神社の下に到着。もう登りはないはずなのに目の前に70数段の階段がある。やっと登り切った。雨にも降られず、思い思いの場所に陣取って楽しい昼食タイムとなった。



昼食の後、住宅地の中を歩いて、竜田川沿いの道に出ると、すぐ行基が開いた金勝寺。13時に到着し、境内を見て回る。美しい紅葉の中、本堂の横の磨崖仏群を見る。上の方は鎌倉時代後期に彫られ、右下の地蔵立像は戦国末期に平群を支配した嶋左近の妻、「ちゃちゃ」の逆修供養仏の可能性がありらしいとのこと。

13時30分に出発。途中、竜田川に架けられている勧請綱を見る。途中で切れているが、大晦日には架け替えられるとのこと。

13時50分に紀氏神社に到着した。神社に入ると、本殿の横の作業場で宮司さんがしめ縄を作っておられた。見学させてもらい、いろいろとお話を聞くことが出来た。



この神社は「平群坐紀氏神社」といい、平群に鎮座する紀氏神の社という意味で、元々は紀氏の氏神を祀る神社で皇室との縁も深いとのこと。本殿の屋根に珍しい二重の菊のご紋がある。

吉備内親王墓を経て14時30分に長屋王墓に到着。あいにくの天気でしたが、平群の歴史と紅葉を十分に楽しむことができました。みなさん、お疲れさまでした。



芋煮会・そば打ち実演会レポ

清原 正彦

12月7日、朝礼が始まると間もなく雨が降り出し、みんなはテントの下に避難。待ちに待った芋煮会の開始が怪しまれる事態になりました。

とはいえ他方、雨で色濃くなったナラやイヌビワの紅葉が艶やかさを増し、雨で重くなった赤や黄色の葉っぱがひらひらと舞い落ちる様子は、風情のある一面を見せてくれました。

そして、10時過ぎには空もすっかり晴れあがり、無事に調理を開始、例年のごとくエコファームGの皆さんを中心に、手際よく準備が進みます。

ベテラン勢の手ほどきを受けながら、若手(?)新人勢も大奮闘。里芋の品種「伊予美人」「甚五右エ門」をならやまで育てることとなったそもその謂(いわ)れや味の特徴を教わったり、大釜の蓋の置き方、ヤカンの注ぎ口の向きまで、古老からでないといけないお話に「へー！ へー！ へー！」の連続です。



<大鍋の芋煮がグツグツと煮込まれて>

12時に芋煮会が始まり、その美味しいこと、美味しいこと。次から次へとお代わりの列ができ、すっかり完食となりました。

お腹が一杯になったところで、そば打ちの実演が行われました。



<芋煮会スタートの合図と同時に大行列>

2019年11月の「第10回記念新そば祭り」以来、コロナ禍もあり中断を余儀なくされていた「新そば祭り」の雰囲気だけでも皆さんに味わっていただこうと実現しました。



<そば打ち実演会場の四阿>

そば打ち初体験の富井さん。体験後の感想は“無理やな～”の一言。



<そばクラブ講師田辺さんと師範代の田中さんのデモンストレーション>

手際よく打たれたおそばは、数量限定でしたが皆さんにお買い上げいただき、自宅で召し上がっていただきました。

こうして、芋煮会も無事終了。

今年もあと少し、楽しく、安全に、みんなでワイワイガヤガヤ、元気に活動しようとの思いを共有しあいました。

「のらの会」 生い立ちと歩み

寺田 孝

一生い立ちー

「のらの会」は、2008年の発会以来今年15年目を迎えた会員相互のコミュニケーションの場(サークル)です。



「発会」は2008年10月10日、近鉄奈良駅近くの雑居ビルの2階にある「恵方」という店でした。「発起人」はお二人。代表として初代会長の川井秀夫さん、「事務方」として会事務局長の弓場厚次さん。「出席者」は11名(内現在活動会員4名阿部 古川 菊川 寺田)。この席で会の基本的なことが、ほとんど決められました。

「会の名称」は、「野良の会ー銘酒を楽しむ集いー」。この名称は会報誌に残っている川井さんの言葉によれば「里山の野良仕事のメンバーが中心となり、首輪のない(自由な)野良犬に因み命名」とあります。この名称はやはり川井さんの発想で第4回の会の時に、「のらの会」とひらがなに改められました。

「設立趣旨」は、「酒とグルメを愛するリベラルな集いで、当会のサークル第1号」(川井さん)「有志の皆で気楽に楽しく各自の好きなお酒を持ち寄って美味しいものを囲もう」(弓場さん)ーと色々な場でお二人が語っておられました。要は「時にならやまの仕事を離れて、自由に気楽に皆で語り合える場所を作ろう」ということでした。

「開催時期」は、新春 お花見 暑気払い お月見と季節のリズムに合わせて年4回とされ

ました。弓場さんは2009年から2015年まで6年間この通りきっちり年4回実施されました。

「事務方」は、発会当初から会全体をまとめ2018年第35回まで10年間、弓場さんが勤められました。基礎を作られ、会を推進して参加者を増やしていきました。

「参加登録制」 誰でも自由に参加できましたが、一度参加すると登録メンバーとなりました。会の実施案内は、この登録メンバー宛になされました。また登録メンバー2名が交代で会ごとの担当幹事になり、場所や趣向を決めるなど実施担当となりました。

ー15年41回の歩みー

「参加者数推移」参加者数は発会4年目2012年まで20名近くでしたが、6年目2014年頃から30名近く、8年目2016年頃から30名前後となりになりました。

「開催場所」各月の担当幹事が工夫を凝らしほとんど毎回違う、変化にとんだ場所と趣向で実施しました。特に4月の花見は、佐保川堰堤、生駒山麓公園など多く戸外で実施しました。

「持ち込みのお酒」参加者が増えるにつれて、持ち込みのお酒も、外国の珍しいお酒など多岐にわたり皆大いに楽しみました。

2017年9月に川井さんがご逝去され、2017年、2018年は開催が年2回になりました。また2018年の第36回から、代表が富井さん事務方は戸田さんに交代しました。

2019年第39回の時に、実施案内を従来の登録メンバーから、当会の会員全ての人に出してオープンな会とすることになりました。

2021年は、コロナ感染蔓延により初めて未開催となりました。その影響などから2019年から2023年は年1回の開催となりました。

川井さんと弓場さんが築かれ、当会の歴史に近い15年続いている「のらの会」。今後とも会全体の「憩いの場」として、会員の自由なコミュニケーションの場として、多くの方が参加されることを願っております。

ならやま印象記

清原 加代子

「ジッ、ジッ、ジッ、ジッ、…」

ウグイスの地鳴きが聞こえます。今は11月。私が活動開始した5月は、「ホー、ホケキョ、ホケキョ…」と鳴いていたので、季節の移り変わりを感じます。

パトロールグループをお願いをして、3回に分けてA・B・Cのコースを案内していただき、実際に歩くことで、ならやま全体の特徴を知ることができました。木漏れ日の中で、山野草や樹木やキノコの名称などを丁寧に教えていただきました。

「ワー、きれい！かわいい！あまい！」

同じく5月。青い空を背景に赤いグミがたわわに実っています。果樹グループの方が大事に育ててこられたグミの収穫の実習をさせていただきました。あんなに大きくて甘いグミは初めてでした。今でも口の中に甘味が蘇ってきます。草刈りをしたご褒美にとグミもお土産に分けて下さいました。ずらりと並べられた樹木板の作成も見学。樹木の名前を表示することは、里山と親しくなるために必要だと納得しました。

「青々として、良く育っていますね！」

8月。エコグループの実習。丹精込めて育ててこられた野菜たち。微調整された肥料と太陽の恵みを受けて、艶やかに輝きながら収穫のスタンバイ。ピーマンの収穫は初めての経験。教えていただいた通りに、下から上に軽く持ち上げるだけで、ぽろりと実が外れました。何とも心地良いです。収穫の後は、販売のお手伝い。ピーマン、ナス、ニラ、シシトウ、ジャガイモを均等に並べて。私もピーマンを購入。その日の味わいは格別でした。

「カッチン、パッチン、カッチン…」

9月。花班の実習日。剪定ばさみを使って、はびこってしまった花や低灌木の姿かたちを整える作業と、一輪車でのごみ搬出を任せられまし

た。当日は、賄い当番とお休みされた事情等で、私を入れて3人。炎天下、黙々と草取りをしておられます。異常気象にもめげずに、彩り良く咲くトレニヤ、コスモス、ルドベキア…の美しさ。その花たちのように、健気に作業をされるお2人の姿。自然の力を利用し、草取りを軽減できないものか。

「リーリーリーリー、キーンキーン…」

10月。コオロギとモズのオブリガードを聴きながら、里山グループでドングリを拾っています。次世代のためにコナラの苗木を植える準備をします。穴を掘って、杉の枝を敷き詰めて、そこへコナラの実を入れて土をかぶせます。コナラの赤ちゃんのベッドの出来上がり。初秋の風が通り抜けていきます。木の芽が出るのが待ち遠しい。



SDGs.持続可能な再生エネルギー。頭の中で閃きました。竹や木の間伐で出

た枝などをチップにした際、それを捨てないで、花壇の通路にまくと、多少は草の成長を抑えられ、見た目も整備されるのでは…と。花班にお声掛けして、里山グループで出たオガクズを花壇に運ぶお手伝いが出来ました。

時間をかけて全てのグループの実習を終えて、今、私は里山グループに属しています。実働される女性がお2人だけという理由から。どのグループも魅力的で、温かく親切にしてください、有り難く、嬉しかったです。

そして、里山グループの寛大なご理解を得て、時と場合によっては、他のグループのお手伝いに回ることの許可もいただきました。

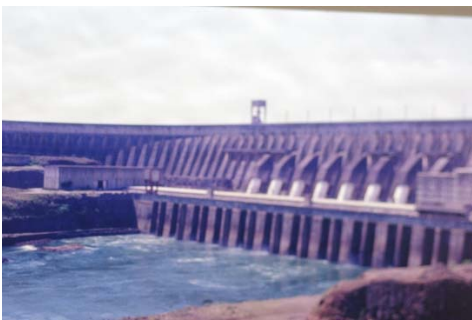
青木さん、戸田さんと3人でトリオを組む時は「かしまし娘」。そして1人で行動する時は「貸します娘」としてレンタル派遣されることになりました。今後とも、どうぞよろしく願います。

海外ボランティア活動体験記-8 パラグアイ(1997-2002)

木村 裕

パラグアイの電力源はブラジルの国境近く、イグアスの滝の上流に大きなダムがあり、9基の水力発電機が稼働。その内の1基のみでパラグアイ全土の電力がまかなえ、残り8基分はブラジルへ輸出しているそうです。

しかし電力が十分にあるにも関わらず停電は頻繁に起こります。トルメンタと呼ばれる激しい風雨が吹き荒れると、電線とよく茂った街路樹の枝が接触し電線が切れます。とにかく街路樹の成長は早く、あっという間に電線は木の中に取り込まれてしまいます。街路樹の剪定は行われてはいますが、電線の周りだけ切り取る方式が多く、樹形はU字形になったり、片側のみ枝葉が茂ったりと不安定な木が発生します。



首都のアスンシオンでは年々車が増えており、日本の中古車とブラジルの新車が中心ですが、欧米諸国からの中古車もたくさん輸入されています。しかもその大半は密輸入と言われているのですがナンバープレートはちゃんと手に入ります。また、運転免許証も簡単に手に入ります。汚職度世界ランキングナンバーワンともいわれる所以です。海外からの援助で道路、下水などのインフラ整備も進められてはいますが、中間段階での搾取が多く、末端の現場には半分も降りていないとも言われています。

乗用車はすべてディーゼル車でガソリン車はなく、冷房車は赴任当初(1997年)では2割前後でしたが任期の終わる2002年には5割

前後にまで増えていました。しかし車検制度がうまく機能していないようで、日常の保守点検や定期点検はほとんど実施されておらず、交差点でいざ発進しようとしても動けなくなってへたりこむ車が頻発です。

自家用車では金持ちが乗るベンツやランクルなどの高級車が増えたものの、荷物を運ぶトラックはかなりくたびれた車が多く、おまけに過剰積載は当然のことでちょっとした坂でも息切れを起こし、バスは車体に事故歴を誇示しつつ、みんな黒い排気ガスをまき散らしています。タクシーもあまり変化がなく、車体はガタガタ、ドアは内側からしか開かない、スプリングのどびだした座席、破れた背もたれなど、満身創痍の車も少なくありません。いくらなんでも今日ではタクシーに関しては改善されていることとは思いますが？

パラグアイ人は仕事に関しては非常にのんびりとしていますが、ひとたびハンドルを持つと一変し我が道をバンバンすっ飛ばして走ります。追い越し、割り込み、信号無視、方向指示器の不使用、制限速度無視、一時停止なし、ありとあらゆるテクニックを駆使して走ります。それゆえ事故は日常茶飯事です。

この自家用車が交差点で停止すると、洗剤のついたモップを持った子供(大人もいる)がやってきて、フロントガラスをササッと拭いて何がしかの駄賃を要求します。車が停止したときには彼らの動向に注意し、やって来たらすぐに断らないと、綺麗にされるのか、汚されるのか、わけのわからないことが起こります。

また、品物を手にもって止まっている車の間を回ってくる路上の商売人?もたくさんいます。売り物は、車関係の装備品、おもちゃ、ガム、果物、チーパ(国民的なパンの一種)、ジュース、宝くじ、新聞、タオル、大きな健康体操器具まで何でもありです。サッカーの国際試合のある日には、国旗や帽子、Tシャツ、何かの記念日にはカーネーションやバラなども出てきます。

新ならやま投句箱

俳句

初夢に微笑む寝顔の愛おしき	千載 輝重
手作りりと匠のおせち競い合	阿部 和生
我思うされど空なり除夜の鐘	羽尻 嵩
年の夜薬師寺の鐘東から	坂東 久平
<small>はつみそら</small> 初御空輝く機影一直線	山本 美智子
七草粥人に優しき野の恵	藤原 勲
今年は何処に花芽庭蠟梅	小島 武雄
鳥たちの分け前も有り庭の柿	古川 祐司
落葉踏み辿る山道かさこそと	菊川 年明
小春日や煙袋筋野良に立つ	八木 順一
年明けに孫も待つてるポチ袋	福田 美伸
おん祭り侍顔の友が行く	豊田 浩代
冬の空豚汁めがけ並ぶ笑顔	國方 まり子
マンリヨウの色鮮やかな道しるべ	清原 加代子
おこぼれのビオラ飾っておらが春	高間 祥子
突然の枯葉のシヤワーキラキラ	桜木 晴代



新ならやま投句箱への投句有難うございます。今後ともよろしく願ひいたします。

短歌

薄靄の立つ池の端にひとつがい
オシドリ浮かぶ初春の朝
日を浴びて紅の競演華やかに
水面に浮かぶもみじまた良し
流離の冬空仰ぎ彷徨いて
明日は何処かああはぐれ鳥

富江 文雄
内河 洋文
谷川 雅邦

川柳

訊かれても往時茫々米寿節
上州路箱根路走る夢を見た
どこへ行く蹴り返えされたあの一粟
安倍さんを偲んでパーティー二万円
温もりを残した猫はどこ歩く
干支づくり悪戦苦闘で年明けける
キツクバック大山鳴動して鼠何匹?
夏日あり冬日も来たり十二月

柳司
ネゴじやら子
ノンポリ
とらキチ
たけちゃん
草引き名人
フランカー
のぶ

次号締め切り 二月二十日 投稿先 田中善英 and5117@nifty.com

行事案内



仲間入りしました



新春交流会のご案内 (ならやまプロジェクト報告会)

富井 忠雄

5つのグループによる里山保全維持管理。

昨年に続いて各グループがこれからの活動方針、問題点など、グループの垣根を超えて意見交換をしたいと思えます。

- ・ほかのグループは何してるの？
- ・みんな何を目的にならやまに来てるの？
- ・そもそも「ならやまプロジェクト」って何？
- *みんなが知りたいことが分かる！
- *みんなが言いたいことが言える！
- *そして、みんなの向かうべき方向が見える！

日時：2024年1月27日(土) 午後1時～

場所：奈良市中部公民館

☆ その後、新春の懇親会

新春交流会後近鉄奈良駅より電車で新大宮駅

場所：一条本店(新大宮駅前) 16時～19時

会費：4000円(飲み放題付)

申込先：[富井忠雄](#)

世話人：藤原・山上・富井

参加申し込みは、A:交流会、B:懇親会
でお願いします。



小山 和夫・佳子

10/19に入会させていただきました小山和夫・佳子です。よろしくお願い申し上げます。

高の原の朱雀に住んで38年になります。小生は物理卒の半導体ICのエンジニアです、現役の頃は日本は世界のトップレベルでしたが。妻は芸大卒のヴァイオリン奏者です。12/24の奈良響の定演に賛助演奏します。2011年に二度目の定年後、仕事が週3日となり庭木を減らし、本を頼りに二坪菜園を始めました。その後、歌姫の竹林整備ボランティアに参加。昨春完全にリタイアしたので地域の活動に参加、平城東公民館で農業に詳しい藤原さんから「奈良・人と自然の会」をご紹介いただき、いろいろな野菜づくりを勉強させていただきたいと思い、エコファームに参加させていただきました。

ただ、10月末に妻がコロナに感染、幸いうつらなかったのですが11月下旬にインフルエンザに感染し、症状はいずれも軽かったのですが、医師から数日の自宅待機と言われ足腰が弱化。楽しみにしていました12/5の平群巡りの月例研修会も欠席とさせていただくなど、まだ数回しか活動に参加できておらず、誠に申し訳ない状況です。エコファームでは高齢の方も元気に活躍されていること、10年以上とかベテランの方も多く、特に女性の皆さん方は販売に向け多種類の野菜の収穫から秤を使った準備作業等々を次から次へとテキパキと段取り良く進めておられることに感心致しました。今後四季折々の農作業を経験させていただきますが、できるだけ早く指示待ちから脱却しなければと思っています。よろしくお願い致します。



2023年12月度 幹事会報告

開催日：11月28日

- I. はじめに
 - ・佐保台小学校で黒米の給食について紹介
- II. 会計・総務部より
 - ・会員動向：退会2名 145名(家族15名)
 - ・会計：収支報告あり
- III. 活動・行事関係
 - *ならやまプロジェクト関係
 - ・12/7 芋煮会・そば打ち披露
 - ・12/28 大掃除、迎春準備
 - ・1/11 初出 餅つき・七草粥
 - 記念植樹ヤマボウシ 対象者13名(雨天翌日)
 - ・豚汁提供 12/14～ 新賄い担当は1月～
- 豚汁の提供について

アンケート結果(あった方がいい、協力できるとともに8割)を踏まえ、従来通り提供することとする。今後の協力分担についてはお世話係(5名)と各グループリーダーと相談して決める。

トイレ掃除は原則として全員が分担する。

◆ならやま参加者98名/会員145名
- IV. 企画、助成金事業案件
 - ・本年度事業は順調に進捗中
- V 特定議題
 - ・1/27 新春交流会
 - 各Gの年間活動計画の説明&意見交換
 - その後懇親会を予定
 - ・幹事改選
 - 会報誌1月号にて会員に候補者推薦を依頼し、結果を踏まえて調整する
- VI. 広報関係
 - ・ネイチャーなら1月号編成内容説明
- VII. 報告・連絡事項、その他
 - ・月例研修会 12/5 平群、千光寺他
 - ・自然教室 1月佐保川小学校学習支援(4年生)
 - ・京大院生の里山土壌調査に協力



大河ドラマ「どうする家康」に便乗して、戦国時代に関する我が異説2つ。

1) 武田信玄・上杉謙信は織田信長側刺客による暗殺説

武田信玄はご存知三方ヶ原で徳川家康を破り、信長と戦う直前に死亡。上杉謙信は手取川の戦いで柴田勝家を大将とする織田軍を破り、本格的に攻めようと準備中に急死。両方とも織田信長に不利な戦いが始まる直前での死亡、ということだと思います。

2) 徳川家康は後継者を本人の能力等に関係なく年の順にすると遺言を残したのでは？

戦国大名が後継争いで勢力を落としたりする事例を数多く見てきたはずですが。失敗も色々あった秀忠を変えることもなく、家光を3代目にした所までは家康直接の指示のようです。家重はまともにしゃべることもできないのに9代将軍になっています。8代将軍吉宗は家康を尊敬していたようで、従ったのでは、と考えます。

以上、証拠も何もない素人の妄想ですが、こういうことを考えるのも楽しいのではないのでしょうか。

2月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動
 - 2/17 椎茸菌打ち・コナラ植樹イベント
- *月例研修会 2/26(月) 小泉の里

会員動向<敬称略>
<退会者> 11/23 吉川 利文

発行：奈良・人と自然の会
 URL : <http://www.naranature.com>
 編集代表 Mail: editor@naranature.com
 編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：年末恒例の鈴木顧問指導による干支人形の作品です。

以上